

令和3年度 第6回掛川市総合計画審議会 議事概要

日時	令和3年10月13日(水) 9:00～11:00
会場	掛川市役所5階 全員協議会室

■出席者（敬称略）

No	氏名	所属・役職等	出席状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 学長	出席
2	星之内 進	NPO 法人おひさまとまちづくり 理事長	出席
3	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
4	金嶋 千明	静岡県危機管理部参事兼地震防災センター 所長	出席
5	鎌塚 優子	国立大学法人 静岡大学 教授	出席
6	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
7	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
8	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
9	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	欠席
10	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	出席
11	中村 陽子	人・農地プラン 委員	出席
12	増山 達也	有限責任監査法人トーマツ ディレクター	欠席
13	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
14	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	出席
15	守屋 輝年雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	欠席
16	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
17	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席

発言者	発言内容
<b>1 開 会</b>	
<b>2 会長あいさつ</b>	
会長	<p>本日は大変足元の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>コロナウイルスも10月に入りだいぶ落ち着いてきた状況で、昨日一昨日あたりは4人くらいということで、非常に良い方向に向いていると思っております。</p> <p>ただ、この1年半ぐらいの間、我々はいろいろな経験をしてきましたが、今日の計画の中にも、昨年来のコロナウイルスの経験を生かしつつ、それをさらに施策の中に取り込んでいくことがポイントだと考えております。</p> <p>基本構想からさらに基本計画へ歩みを進めていくことになり、私も資料を拝見し、いろいろなところで新たな視点から、掛川市の総合計画の具体的な方向性が見えてくる記述がたくさんあると思っております。</p> <p>今日はそのような将来的な方向性を見据えながら、皆様と検討していきたいと考えております。2時間という限られた時間でございますが、実り豊かな検討の場とさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<b>2 市長あいさつ</b>	
市長	<p>本日はご多忙の中、総合計画審議会のためにお時間を割いていただきありがとうございます。</p> <p>この部屋は、全員協議会という議会の部屋で、お気づきになった方がいらっしゃると思いますが、部屋の背面に写真をかけました。今週末から地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」を開催してまいります。あわせて掛川茶のリブランディング、「お茶と暮らし」をテーマに訴えかけていこうということで、この部屋だけではなく、市長応接室と庁議室に、横3メートルほどある大きな写真、各部屋違う茶畑の写真を飾り、掛川茶などについて取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>私も、4月に就任してから半年が経ちました。コロナやワクチン接種などバタバタしているうちに、あっという間の半年だったと感じていますが、この間、就任してから私が訴えてきたのが、「対話とチャレンジ」という言葉です。例年、各地区での地区集会を開催しており、今年も市内20～30地区に私が出向いて意見交換や対話をするということを計画しましたが、残念ながらすべて中止になってしまったので、オンラインなどを用いた代替の手段を考えております。地区集会の進め方も以前とは変えて、コーディネーターを入れたやり方を考えていましたので、中止になりとても残念に思っております。「チャレンジ」については、この総合計画の基本構想にも入れていただき、「対話」もそうですが、いろいろなことに挑戦していきたい、またそうしたことができる掛川市民であると思っております。そういう意味で、総合計画はしっかりと作り上げることが、今年度一番大事な仕事になってくると思います。</p> <p>今日は、今年度2回目の総合計画審議会となります。次回の開催は1月を予定しており、それまでの間に、パブリックコメントという形で市民から意見を伺ったりするプロセスを経ることになります。</p> <p>これまで基本構想という大枠をご議論いただいておりますが、今日はその下にそれぞれの施策がついている基本計画についてご討議いただくということでありますので、忌憚のないご意見を頂戴することをお願い申し上げます。</p>
<b>議事(1) 第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】基本構想の改定について</b>	
会長	<p>それでは、さっそく議事に入ります。</p> <p>先ず、議事(1)、議事(2)</p> <p>「第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】基本構想の改定について」</p>

発言者	発言内容
	「第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】基本計画の改定について」事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1-1、1-2 説明
会長	ただいま事務局から、資料1-1と資料1-2、特に基本構想の改定について説明がありましたが、委員の皆様の方から何か質問などございましたらお出しいただきたいと思っております。
委員	<p>人口推計を委託して検討しているということでしたので、その検討方法について少しコメントします。</p> <p>おそらく出生率をどう設定するかによって、将来の掛川市の将来人口推計の結果が変わってくると思うので、いくつかシミュレーションしておく必要があると思います。その中で出生率プラス社会移動がどうなるか、いくつかパターンを出した上で、総人口がどうなるか、生産年齢人口がどうなって、子供の数がどうなる、ということを試算すると、例えば今、出生率は1.64でしたが、これが、0.5上がるとどんな影響があるのか、0.5上げるためにはどんな施策を打たないといけないのか、というのが今後の総合計画の施策に絡んでくると思います。この人口シミュレーションについては、もし必要でしたら私もアドバイスできると思いますのでご検討ください。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>何かレスポンスがありますでしょうか</p>
企画政策部長	<p>人口推計につきましては、現在、外部委託により計算を進めておりますが、人口問題研究所のように、低位、中位、高位というようなところでいくつかのパターンを推計する必要があると思っております。</p> <p>基本計画の中では、当然そういったことが施策や事業として表れてきますので、そういった面でいろいろなご意見をいただきたいと思っております。</p>
委員	人口問題研究所の推計結果をまちにブレークダウンする方法と、掛川市の人口からコホート方法で出す方法と、いくつかパターンがあると思いますので、またご相談いただければと思います。
<b>議事（1）第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】基本計画の改定について</b>	
<b>「1教育・文化分野」「2健康・子育て・福祉分野」</b>	
会長	<p>次の基本計画に議事を移します。</p> <p>2つ目の議事、第2次掛川市総合計画基本計画改定について説明をお願いします。</p>
事務局	資料2-1、2-2、2-3 説明
委員	<p>1-（1）の目指す姿については、これでよろしいかと思っております。</p> <p>現状と課題のところ、8月に学校教育法施行規則が一部改定され、今後、医療的ケア看護職員が開始されることとなりますので、学校サポーター、外国人児童支援員、ALT学校司書の派遣というところに、さらに医療的ケア看護職員も加筆していただきたいと思っております。これは福祉分野の「障がいのある方の幸せな暮らしの支援の充実」にも関連してきますし、ちょうど施行規則が改正されたところですので、加筆をご検討いただけたらと思います。</p>
会長	計画の中には、そのようなことも盛り込んでいただくということで、お願いいたします。
委員	基本方針のところは、久保田市長のお考えで、このとおりでいいと思います。「チャレンジできるまち」の「チャレンジ」は、ぜひ、市の職員の方も対象であるということを見なさん理解して、市の職員も積極的にチャレンジしていただきたい、市民だけではなく、

発言者	発言内容
	<p>そういった気持ちをもっていただければと思います。</p> <p>それから、この後の検討につながってくると思うのですが、人口減少問題を解消するためには出生率を高めないといけない、出生率を高めるのはいくつかの施策を組み合わせなければなりません。例えば、出生率が下がっている最大の原因は未婚割合が増えていることです。未婚割合が増えている理由はいくつかあって、結婚するしないは自由ですし、ただその中で出会いがないとか、所得が少なすぎてとても結婚できないなどいろいろな理由があります。そのため、掛川に住んでいる人の未婚割合を減らす、そのためには出会いの場を作ったり、若者の所得を上げる工夫をしたりすることをしなければいけません。さらに、都市部から掛川にIターンやUターンで引っ越してくれば、結婚して子供を非常に持ちやすいまちだというような、社会移動プラス出生率の向上につながる施策を入れておく必要があると思います。今は各戦略の柱ごとに施策が書かれていますが、裏側ではそういうものをすべて組み合わせて人口減少を食い止めるという意識を持つ必要がありますし、そのために今行っているシミュレーションがそうした施策との関連性をきちんと裏付けられるよう、複数のシミュレーションをしておく必要があると思います。個別の施策については今書かれている内容でよいと思いますが、そうやってお互い関連しているということをご理解いただければと思います。</p>
会長	<p>大変重要なご指摘だと思います。</p> <p>それぞれの分野でも関連する部分はありますので、そのようなご意見もあわせてお願いいたします。</p>
委員	<p>女性としての考えですが、もう少し女性に対する配慮も、いろいろな意味でしていただけるとありがたいと思います。現在働いている環境もそうですし、結婚して出産、子育てとなりますと、今ある仕事も一度辞めたりお休みしたりすることになります。そこから就職を考えたり復職したりするなど、様々な意味で一度ブレーキがかかるような形になります。また、戻ってから実際に子育てもしていく、今までは1人の女性だったのが、旦那さんがいると妻という役割があり、子供がいたら母という役割があります。様々な役割をこなしていく上で、女性に対するサポートがもう少しあると、1人目の出産をして子育てをして2人目という形もつながるかと思っておりますので、そこも含めてサポートしていただけるとありがたいです。</p>
会長	<p>最近よく、ジェンダーダイバーシティということが言われておりますが、特にこの基本計画の中で、今ご指摘があったような女性にフォーカスしたようなところがあれば教えてください。</p>
企画政策部長	<p>75ページの7-(2)の「多様性に富み」という中に記載をしております。</p> <p>掛川市では、第4次男女共同参画計画の策定をしており、今いただきましたご意見につきましては、計画の中で汲み取れるような対応をしていきたいと思っております。</p>
委員	<p>未婚や、出生率自体が第2子、第3子というところに繋がってくるかと思っておりますので、そのような所も踏まえていただけるとありがたいです。</p>
子ども希望部長	<p>合計特殊出生率は、令和2年1月1日現在、掛川市は1.64という状況です。これは県内では比較的高いところに位置しており、その要因というのは先ほど委員からご指摘がありましたとおり、複雑な要因が絡み合っており、1つの要因が突出しているわけではありません。例えば、持ち家率が高い、延べ床が多いということは、子どもがたくさん生まれても許容できるスペースがあるお宅であるとか、三世同居率が高いなど、そのような受け入れ側の状況があります。</p> <p>また、子育てについては、市の予算の関係もございしますが、放課後児童クラブや保育環境の利用児童の受け皿が伸びているということや、地域的に女性の就労がしやすい環境</p>

発言者	発言内容
	<p>にあるということなど様々な要因が絡みあい、現状では出生率が比較的高くなっており、今後そういった努力を続けていく必要があると思います。資料の9・10ページの施策は、主に出生する前の妊娠してからの家族や本人へのケアの関係、そして出生後につきましても保健師やコンシェルジュという保育士資格を持つ者がお宅へ伺い、その才児ごとに応じた困りごとを解消できるような訪問活動をしているというのが、今、掛川市の特色として行っている事業です。</p>
会長	<p>その事業を、ゆるぎなく進めてもらいたいと思います。</p>
委員	<p>いろいろなニュースを見ていると、女性が働く場合、0か100か、働くか働かないか、子どもを預けるか預けないか、自分で育てるか育てないかといったような選択になっているのですが、以前の農業が基幹産業だった頃は、子どもを身近に置きながら働いている人がたくさんいて、それを周りでサポートする体制があったと思います。掛川市が選ばれるまちになるには、ただ単純に保育所が充実しています、待機児童がいませんということではなく、女性が本当に求めているものが本当に子供を100%預けたいということなのかというところを、きちんと今の声として聞いていただきたいと思います。その中で、近くでも働けるような環境、今はオンラインもありますし、いろいろ外部に出していた仕事を委託するというサイクルも確立していると思いますので、掛川はぜひ、そういった情報が一元化されるようなものがあればいいと思いました。</p> <p>例えば、私の勤務先でも月刊誌を出しているのですが、その中で、インタビューを行ったとき、職員がすべて原稿起こしをしています。それを、例えば下起こしを外に出したいと思っても、どなたにお願いしたらいいかわからない、議事録の作成などの仕事をできる方はいると思いますし、そういったことがスキルとして個人事業主として独り立ちするような可能性もあると思うので、市でプラットフォームみたいなものがきちんとできればいいと、自分が子育てした時の経験から思いました。</p>
会長	<p>女性活躍支援のためのプラットフォームを作ってほしいということだと思いますが、市として何かそういった取り組みはありますか。</p>
市長	<p>働き方や仕事の出し方はかなり変わってきていると思っており、子育てについてもいろいろなやり方がある、保育園に預けるだけではないという中で、複合的な提案として、仕事のシェアリングのような仕組みの提案を受けました。地域の中で子育ての負担をみんなでシェアするとか、仕事の内容についてもシェアするというような仕組みを検討していきたいと思っております。今は他の地域を見てもなかなか行っているところはないと思いますが、たぶんそのような時代になっていくと思っております。</p> <p>先ほどお話のあった女性の負担の軽減策についてですが、最近になって、市の職員を見ても、若い男性が子育てなどを一生懸命やっている人が多くなっています。それでもやはり、女性への負担というのはかなり大きいと思いますので、その軽減も含めて検討していきたいと思っております。</p>
委員	<p>私も子育てをしてきましたが、子どもが小さい頃に掛川市に転入してまいりました。私は逆に、掛川で子育てができたことで、子育てが楽にできたと思っています。保育園は広くて走り回れるくらいの広さがあり、掛川市内に勤めて掛川市内の保育園に入れたことで、雨の日の送り迎えもとても楽にできました。それまでは、車で保育園に子供を預けて、一度家に帰ってからバスに乗って職場に行き、それだけでクタクタになってしまっていたので、非常に楽になりました。掛川だけで子育てしているとわからないかもしれませんが、すごくいいところで子育てしたと思っております。</p>
委員	<p>子どもたちの引きこもりや不登校の問題、その背景には、例えばシングルファーザーやシングルマザーであるとか、虐待された方の精神疾患のことであるとか、様々な社会の問</p>

発言者	発言内容
	<p>題が直結していることがあります。静岡県は、全国で義務教育、小中学校の不登校が5番目に多いところで、それは非常に問題だと思っています。掛川市がどんな状況にあるのか、またその背景に様々な家庭や社会の問題が複合的に絡み合っているということもあるかと思しますので、そのあたりについても詳細に分析する必要があるかと思ひますし、子どもたちに対する手だても具体的に考えていく必要があるかと思ひます。</p> <p>今回の教育分野のページでは詳しく説明がされていませんが、ICT化によって今まで学校につながりにくかった不登校の子供や病弱の子供がどのようにつながれるかというところで、ICTの活用もできると思ひますが、そういう家庭に限ってなかなか活用ができない状況にあることもあります。そのため、それらの状況も含めて、子どもたちの本質的な問題ももう少し詳しく調査して分析しながらきめ細やかな支援をしていく必要があると思ひます。</p>
会長	掛川市では、不登校の問題についてはいかがですか。
教育長	<p>不登校の問題は、掛川市でも大きな課題として教育委員会でも捉えております。これまでも、教育センターを中心として、そういった子どもとご家庭への対応を進めてきましたが、その都度分析をしてきております。やはり、ご家庭のいろいろな問題が複合的に絡み合っ、それが原因であることが分かっていますが、一時的にこうすれば解決するという問題ではなく、やはりそのご家庭にあったきめ細かな対応を進めていくしかないと思ひております。それと合わせて、ICTの活用のお話がありましたが、大きく教育が変わろうとしている中で、うまくデジタルの活用、機器の活用ができないかを検討し、今学校に来られない子どもやご家庭にも、しっかりタブレットを配置し、ネット環境につなげられるよう配慮しております。それにより、何割かが授業に参加したり、オンラインで参加したり、またはオンラインを通じて一緒に学習ができない子どもであっても学びを進めていくような取り組みを積極的に進めております。</p>
委員	ICT化によって、虐待を受けている子どもや、ヤングケアラーの子どもたちが、SOSを出しやすい環境を作れるかと思っています。
委員	<p>高齢者について、2-(3)の健康づくり、2-(4)の誰もが安心して医療を受けられる環境、2-(5)の高齢者が生き生きと暮らせる環境のあたりですが、人口の年齢の構成がだいぶ変わってきて、今まではおそらく働く世代の健康として、生活習慣病の予防あたりが中心だった所から、西部地域は県内でも高齢者が非常に増える地域で、健康の視点も高齢者の方にどんどんシフトしていくと思っています。高齢者になっても健康でいるというのは、今までの生活習慣病の予防という観点だけではなかなかカバーしきれないところがありますので、高齢者が生き生きとしてくためには、どのような健康づくりが必要か、高齢者に対しての教育、また高齢者だけでなく次世代、次に介護をする方や小学生や中学生に対しても、100年時代にどういった人生を歩んでいくのかを学ぶ機会が必要だと思ひます。先ほど女性の子育てのご意見もありましたが、現状、介護も女性にかなり負担がかかっている状況があります。自分の親だけではなくて夫の親も介護している状況で、人口が減っていく中で介護の負担が非常に大きくなっており、女性や身内だけが介護している状況では、サステナブルな環境は作れない状況になっています。高齢化の中でどのような対応が必要かというのを、介護している人や介護を必要としている人だけが知っているのではなく、次世代も含めて、高齢化してく社会がどういう社会なのか、どういうことが自分たちの役割として求められているか、この辺りの教育が今後非常に必要になってくると思ひます。</p>
健康福祉部長	19ページの2-(5)の①に「在宅支援と多世代交流の促進」という項目がございます。地域の方を巻き込んだ、高齢者の方の健康支援、それから一緒に生き生きと暮らしていく

発言者	発言内容
	<p>というようなことを皆さんで考えて取り組んでいくという項目にしたいと思っておりますので、こちらを膨らめてまいります。</p>
<p>「3環境分野」「4産業・経済分野」「5シティプロモーション分野」</p>	
<p>委員</p>	<p>女性が安心して働ける環境を社会全体で作っていくことが、とても大事だと思っています。保育環境は全体的にかなり整備されていますが、働くお母さんたちが戸惑うのは、学校に上がった時、それから受験などに子どもたちが向き合う時に、安心して働ける環境なのかということもつまり要因になっていると思います。だんだん高齢になっていきますと、今度は、親の介護など様々なことに直面してきます。そういった時に、例えばその期間きっちり休める制度があるとか、そういうことも含めて、女性が20代、30代、40代、50代、60代と長期にわたって、その年齢に合わせた、環境に合わせたサポートシステムがあると、女性も長く働くことができるのではないかと思います。</p> <p>焦点がどうしても、子育てや保育、育児のところにスポットが当てられますが、やはり働いているお母さん方の悩みというのは、保育だけではなく、学歴社会、子供が学校に通学する時のつまずきなど、いろいろな場面に直面する時にしっかりとしたサポートシステムがないと長く働けないと思います。産業界と行政やいろいろなところがタイアップしていくことをうたってもらえると非常に心強い、掛川らしい仕組みになると思いましたので、ぜひご検討いただきたいと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>37 ページの4-(1)あたりかと思いますが、雇用・就業の環境づくり、あるいは掛川に仕事をつくる商工業、そのあたりのところに女性の視点や保育など、いわゆるジェンダー的な視点というのが横串として刺さってくると非常に面白い展開になってくると思えますので、そういった理解を進めていただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今のお話に全く同感で、女性に限った話ではなく、女性だけががんばっても何も解決せず、いかに男性の協力やサポートをしていくかということが、女性にとっては本当に必要としているところなのでお願いします。</p> <p>今回の基本計画を読み、内容は大変素晴らしいのですが、37 ページの4-(1)の雇用環境づくりのところでも気になったことがあります。それは、それまで戦略の柱2の子育て分野で、安心して出産子育てできる環境の整備ということが多くうたわれているのですが、女性が働き続けられる環境を社会構造として作っていかないとだめだと思います。様々な施策を行っているのですが、そのあたりが触れられていません。おそらく担当の部署が別だという理由があると思いますが、少し分断されているような印象を受けました。もちろん掛川市としては、女性が働き続けられる環境づくりに取り組んでいるというのは、基本計画案を拝見するとわかりますが、もう少し企業側や取り巻く環境として、女性が働き続けられる環境づくりの仕組みを作っていくということがわかるようにしていただきたいと思えます。</p> <p>例えば、39 ページの4-(2)でも企業誘致の話が出てきますが、他市町で企業を誘致する場合、工業団地で企業同士が共同で託児所設置したという話を聞きました。企業側にも女性が働きやすい環境を作ってもらうために制度を作り、協力してもらうという視点も必要なのではないかと思えました。</p>
<p>会長</p>	<p>計画の中に企業の協力の視点を入れ込むというお話だと思いますが、市として何か取り組みはされていますか。</p>
<p>経済産業 部長</p>	<p>企業につきましては、家庭内保育をお願いしたこともあり、市内の企業1145社に対して、有給休暇の奨励や子育て支援のサポートをしていただくようご案内を出しております。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>様々なサポートが行われていると思いますが、連動するような形で進めていただきたいと思います。</p>
委員	<p>37 ページ以降のワークライフバランスのところ、女性の創業ということが少し書かれています。女性が働き続けられる社会という大きな命題がきちんと書かれていないのが気になりました。女性が働き続けるには、様々な制約を乗り越えなくてはならず、託児所の問題だけではなく、学童保育や男性の育児参加などの問題があります。聞いた話によると、育休をとった男性が家にいるとかえって邪魔なので、奥さんが旦那さんに会社に行ってもらいたいと思うケースもあるようです。男性が単に家にいればいいというわけではなく、きちんと女性の代わりを務めるためには、男性に対してどういう教育をしなければならないのかということ、この中に多めに盛り込んだほうがいいのではないかと思います。</p> <p>それから、以前は、掛川市に住み続けたいが自分のやりたい仕事が地元になので仕方なく静岡や東京、横浜に出ていくという方が多かったのですが、現在は一部の業種においてはモバイルワークがかなり進んでおりますので、掛川市に住んだまま東京や大阪、名古屋、あるいは海外の仕事に就くこともできます。また、産業の話としても、労働人口が減っていく中で、掛川市に引っ越してまでは働けないが、現在住んでいるところからリモートワークで掛川の仕事を週3回やることもできるといった様に、コロナ過で進んだモバイルワークが産業面や雇用面で大きな変化を与えておりますので、そのあたりについては、今後、施策の頭出しはしておいてもよいのではと思いました。</p>
会長	<p>柔軟な働き方が進んできている状況の中で、全体的な就業環境の整備や在り方自体を見直す必要が出てきているということですね。</p>
企画政策部長	<p>コロナが発生して以降、様々な動きがあることは認識しておりますが、掛川市の企業や団体含めて、自走という段階まではまだ十分進んでいないということは事実だと思います。そのため、そういったことをこれからの時代の中でどのように構成していくかということは、非常に重要なことだと思っております。今後、企業との関係を作る中でご意見をお聞きしながら、そのような視点も取り入れていきたいと思っております。</p>
委員	<p>3-(1)の地域循環共生圏のことについて、ゼロカーボンという言葉が出てきているのと並行して、この地域循環共生圏という言葉が国から強く発信されて動き始めています。この言葉は、市民になじみのない言葉であり、市役所の中でも環境の部署以外ではなかなか通用しにくい概念だと思います。この言葉がなぜトップに出てくるかというと、国が2025年ぐらいまでに今できることを総動員し、ゼロカーボンの素地を作るところからの言葉であり、大変重要なことだと思っております。</p> <p>ただ、大変難しいのは、環境の話だけではなく、例えば中山間地の荒廃の問題ですと、その対策としてバイオマス発電で介護施設の空調や温水を供給するとか、あるいはお茶の生産の中でのたくさん使われている電気やボイラーで使っている燃料をバイオマスや太陽光で賄うだとか、様々な産業と環境の問題を同時並行的に解決することができないか、そういう非常に複雑な分野ですので、市民も含めて掛川市全体でいかに意識理解するかという話だと思います。例えば、掛川にある中山間地の木材のクレジットの話やゴルフ場の荒廃のクレジットの話など、関係者が一堂に会する場を作って、持っているポテンシャルを掘り起こす、あるいは課題を共有するといったところから始めていかないとうまくいかないと思っております。</p> <p>また、人の問題として、26ページの④に「環境人材の育成及び確保」と書かれているように、環境問題に関心を持つ市民だけではなく、行動してくれる市民を増やしていかなければならず、もう少し踏み込んだ施策が必要となってくると思います。地域</p>

発言者	発言内容
	<p>循環共生圏の推進の中で、課題を抱え興味を持つ人が一堂に会して議論する場づくりや、行動する人材の育成など、もう少し踏み込んだことを行うとうまく進んでいくのではと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>かなり踏み込んだご指摘をいただいておりますが、市としてはいかがですか。</p>
<p>環境政策課長</p>	<p>委員からご指摘いただきました部分につきましては、SDGs や society5.0 といったもので、世間一般に広く知られているところですが、いわゆる環境版の SDGs ということで地域循環共生圏を考える時は、公共、まち、森と農、電力、産業など様々な分野が相互に良好な関係を構築し、お互いにコベネフィットを持つということを想定しながら、様々な計画を立てております。</p> <p>担当課としましても、今年度から本格的に外に出て、様々な分野の皆さんとお話をさせていただきました。医療や高齢者の部門、産業部門など、様々な分野の皆さんと話をしながら、電力を活用しながらカーボンゼロを目指し、いかにうまく社会を循環させるかということを行ってまいりたいと思っておりますので、ご意見を賜りまして慎重に検討していきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>農業の分野につきまして、基本計画の中で、修正・加筆されている部分に関して、農業における現状と課題は非常に的確に書かれていると思います。例えば、荒廃農地の問題や担い手不足の問題など、現状をよくとらえていると思います。</p> <p>現在の農業は、非常に担い手不足が深刻で、絶対的に出会いが足りないと思います。例えば、結婚に関しての出会いでいうと、私の周りでも両親と農業をやっているという方が多くいますが、ある程度の年齢になっても、農業は厳しい仕事だからお嫁さんをもらってもと考えている方が多いという話も聞きます。そうすると、もちろん人は減っていき、担い手がさらに減っていくという負のスパイラルにはまっていくと思います。</p> <p>そのほかの出会いとして足りないものは、農業、商業、工業の枠を超えた出会いというのが農業には少ないと思います。例えば、商業の方や会社を営んでいる方同士ですと名刺交換会というのがあると思うのですが、農業をやっているとそういうことはまずありません。ですから、農業、商業、工業の方々が集まれる出会いの場というのが市内で増えていくと、広がりが増えていくのではないかと思います。</p> <p>農業というのは小さな企業体だと思います。個人事業主である以上、やはり様々なものを使います。エネルギーに関しても、皆さんが思っているよりも電気を使っていますし、重油を使っています。ですから、再生可能エネルギーを広げていく可能性、掛川報徳パワー株式会社を活用した何か新たな取り組みに参画していく可能性は非常にあると思っております。そのほかにもお茶をインターネットで販売しようと思っても、まず何から始めていいかわかりません。先ほども話があったように、SDGs やエネルギーに関心のある市民、関心のある農業者は多いのですが、実際行動する市民にはなれず、それはなぜかという、出会いが少ないため何からやればいいのかわからず、特に高齢者はそういう人が多いのです。若手もがんばっておりますので、出会いの場がもっと増えていけばいろいろな意味でわかっていくと思います。</p> <p>もう1つ出会いとしては、不登校の子供や障がいのある方の話を聞いて、高齢者施設では、植物を育てることによって心を整える取り組みが進んでいるとよく耳にします。例えば、不登校の子供は、家にいるか学校に行くかの二者択一ではなく、農家のところに少しだけお手伝いに行って自然に触れてみるといった取り組みがあってもよいと思います。農家の方はおそらく受け入れてくれると思いますし、そういったことに出会う場がない、子供たちや障がいのある方と知り合う場がないということが問題だと思っておりますので、今後、農業が絡んだ出会いが増えていくとよいと思いました。</p>

発言者	発言内容
会長	農業の多面的な状況についてご意見いただきましたが、出会いというのは様々なレベルの出会いがあり、極めて重要であるというご指摘だと思います。農業は非常に重要な産業だと思いますので、今後の展開として市として何かお考えがありましたらお願いします。
企画政策部長	本日の中日新聞に掲載されましたが、SDGsのプラットフォームというものを、昨日の市長定例記者会見でリリースいたしました。これにつきましては、昨年度、掛川市がSDGs未来都市として選定されたこともあり、今後は農業や様々な出会いの場を作っていきたいと思っております。そういう出会いの場を作って、次の時代に掛川市の産業や企業団体が育成できていくような方向を、計画にも書き込んでまいります。
委員	<p>25 ページの3-(1)の地域循環共生圏の構築について、こちらの現状と課題の部分に非常にすばらしい構想や方針が掲げられている中で、施策の方向がまだ少し抽象度が高いというか、なかなか範囲が広くて難しいということかと受け止めています。先ほどの話にもありましたが、地域循環共生圏の構築は、環境分野に閉じないテーマになってきていると受け止めています。今回、この環境分野は、産業経済分野や地域全体、ポストコロナ社会の視点でいうと、おそらく様々な政策、施策、全体に関わってくるものなので、表現の仕方が難しいと思います。例えば、①の「掛川版地域循環共生圏の推進」は、新電力との連携だけでないと思います。この施策の中身や関連する施策への広がり部分をここに記載をするか、または他の施策の中に関連する部分についてこの施策との連携をうたうのか、このあたりを検討していただければと思います。</p> <p>環境分野は広く、横断的な取り組みになる中で、行政としてどこの課が主導していくのか悩ましいところだと思いますが、ここは掛川市でチャレンジしていただき、新しい産業分野の創出も含めて、環境にとどまらない、今回の取り組みを位置付けていただければと思います。</p>
会長	施策の部分について、もう少し広がりをもって検討をとということですので、お願いします。
委員	<p>戦略の柱4の雇用や仕事を創るといっていますが、コロナの影響で、最近廃業を考えている事業者があるとよく聞きます。特に、借り入れのない優良な企業ほど、借り入れがないので後継者もない、借り入れがないので今が辞め時という事業所が非常に多いと思います。優良な基盤があるにもかかわらず廃業してしまうことは、とてももったいないと感じることが多く、ここに書かれている創業ということも非常に必要なことですので、基盤のあるにも関わらず廃業を予定している企業を使って、ほかの方に事業を譲り継ぎできるような形も今後必要になるのではないかと思います。基盤のある中で事業を継承するということは、創業に比べると少しハードルが下がるのではないかと思いますので、ぜひ進めていただきたいです。このような施策を進めて行けば、U I J ターンで事業を行いたい方がいれば繋がれると思いますので、金融機関や行政が協力し、廃業が少なくなるようにしていけたらと思っております。</p>
産業経済部長	中小企業振興会議という会議の中で、市内の中小企業にアンケートを取ったところ、「事業継承ができない」との回答が46%ありました。これは、掛川市にとって非常に大きな問題だと思っておりますので、中小企業振興会の中で皆さんのご意見を聞きながら対策を進めていきたいと思っております。
会長	ぜひ、その取り組みも進めていただきたいと思います。
委員	私は、医療や介護の従事者が少ないことを関係人口で補うことができないかと思いい、掛川市の魅力を伝えることも楽しみながら力を入れています。43 ページの4-

発言者	発言内容
	<p>(4)のお茶のブランディングや、5-(1)の体験型の交流人口など、移住まで含めていくつかすばらしい点がありました。特にお茶と暮らしのホームページや冊子を拝見し、昔の掛川のお茶の作り方から歴史を紐解いて、現代の人にどのような暮らしが掛川市にあったのかなどが書いてありすばらしいことだと思いました。</p> <p>掛川市の魅力がととてもすばらしくブランディングされておりますが、その対象のペルソナが、どういった人を対象に、誰に響くブランディングをしているかわかりませんでした。対象を明確にすることで一人ひとりに説明すれば、関心を持って、掛川市に行ってみたいという話になります。例えばお茶の話ですと、全国の人全員に掛川市のお茶について知ってもらうというよりは、掛川のお茶のストーリーにあるカルチャーに響く人が1%でも0.5%でもいれば相当な数になりますので、誰にこれが刺さるような形で進めているかということをもう少し明瞭化して、そのペルソナをはっきりさせていくと、先ほど行動する人を巻き込んでいくという話もありましたが、そういった人たちが動いて、掛川市にほしい人材だったり、関わってほしい人たちだったり、より届きやすくなるのではないかと思います。</p> <p>特に、掛川市は海も山もあり、アクティビティなども非常に豊富で、お茶とアクティビティなど、様々な掛け合わせもできる非常に可能性の高い地域だと思います。実際に私も、ウインドサーフィンをやっている人がどこかに移住したいということで、浜松や掛川を考えていたのですが、お茶やアクティビティや仕事の話をして、一人移住してもらったことがあります。網でダーッととる一網打尽というよりは、誰に響くかということをはっきりさせたプロジェクトにすると、市民もシティプロモーションを手伝いやすく、より明確に移住を考えている人たちに届きやすいと感じています。</p>
会長	<p>とてもユニークな視点だと思います。掛川の持っている潜在性というかささまざまなリソースがありますから、それをうまく発信すると、今のようなところに結びついていくと思います。</p> <p>お茶のブランディングからシティプロモーション分野について、非常に重要なご指摘をいただきましたので、参考にさせていただければと思います。</p>
<b>「6安全・安心・都市基盤分野」「7協働・広域・都市基盤分野」</b>	
会長	<p>「6安全・安心・都市基盤分野」「7協働・広域・都市基盤分野」につきまして、お気づきの点がございましたらご意見をお願いいたします。</p>
委員	<p>79 ページの7-(4)の行政経営の観点ですが、デジタル化に関して少し見方が浅く、範囲が狭いと感じています。行政内部業務のデジタル完結を進めるということが非常に大切で、これは往々にして住民サービスをデジタル化するとよく言われるのですが、内部業務をデジタル化するというと、行政職員が楽をするために税金を使うのかという批判をする人がいるのですが、それは全くの間違いです。</p> <p>内部業務をデジタル完結することには3つメリットがあり、1つ目が住民サービスの向上です。業務が迅速で正確になり、機械がやることを機械に任せれば、職員は人でしかできない仕事に従事することができます。そして2つ目は、例えば少子化対策や子育て支援、あるいは就業・雇用の話は、庁内でかなり横断的に横串を刺して施策を進めないとうまくいかないことがたくさんあります。そのためには、庁内で紙のやり取りをしては情報共有や連携ができませんので、やはり内部でデータのデジタル化を進めることが必須であります。3つ目は、市民協働の話がでておりましたが、もともと掛川市には報徳の精神があり、市民活動が活発なまちではありますが、市民や企業と一緒に物事を行おうとした場合、情報共有がととても必要になります。その際</p>

発言者	発言内容
	<p>も業者内部で様々なデータがデジタル化されていないと、市民との協働もできなくなりますので、内部業務のデジタル完結というのは非常に重要なポイントとして、ご検討いただければと思います。</p> <p>お茶のブランディングについては、私も重要だと思います。東京大学の研究で静岡県你的生活習慣病の状況を調査したところ、静岡県東部は生活習慣病が多く、中部・西部は少ないという結果が出ました。この原因は、やはり食生活の違いが考えられ、中部・西部はお茶をよく飲み、東部は漁業が盛んでお茶よりもお酒を飲むということが生活習慣病に影響しているのではないかと話もありましたので、お茶のブランディングの話に「健康」というキーワードを加えると、掛川茶に限らずお茶全体の需要増に繋がるのではないかと思います。</p>
会長	<p>デジタル化のメリットを十分とらえていないのではというご指摘かと思いますが、そのあたりはいかがですか。</p>
企画政策部長	<p>とてもよいヒントをいただきましたので、今いただきましたご意見を施策へもう少し書き込んでまいります。</p>
委員	<p>戦略の柱6について、安全・安心なまちづくりというのは、富士山の裾野のように市民生活を下支えするとともに重要な施策であり、掛川市は自助、公助、共助、バランスよく防災対策を取り組んでいる素晴らしいまちであることは重々承知しています。</p> <p>今回の基本計画でも、社会インフラ、ハード整備、国土強靱化計画のようなハード面だけでなく、自助、共助と連携した、防災だけではなく、防犯や交通安全といったソフトを組み合わせた安全・安心なまちづくりも重要な柱として位置付けていることは、非常に評価されるのではないかと思います。</p> <p>一方、市が防災関連で一生懸命行った取り組みの減災効果をどこかに記載した方がよいのではと感じました。東京の有楽町に全国の移住定住相談センターがあり、静岡県もブースを構えています。相談員の方に静岡県の評判を聞くと、「風光明媚で気候は穏やか、観光も海もあれば山もありとてもよいところだけれども、南海トラフ地震が怖い」とよく言われると伺いました。その話を聞いて、静岡県も市や町と一緒に防災対策を行っていますが、効果が伝わっていないのではないかと思います。</p> <p>ここ数年、静岡県では、南海トラフ地震に対してこのような対策を講じ、それでこの減災効果、今までの取り組みにより、南海トラフ地震で亡くなる方や想定される方がこれだけ減ったという減災効果を出すようにしています。また、浜松市では防潮堤を作り、浜松市の職員の方からは、今まで沿岸部の企業は避難すること中心に考えていたのですが、防潮堤ができ、県と浜松市により防潮堤ができる前とできた後にどれだけ浸水面積が減るかということを目で「見える化」して地図に落とし込んで公表したところ、県内外の企業から企業立地の問い合わせがとても増えているという話を聞きました。掛川市は自助、共助の取り組みを行っているので、その効果というものを、総合計画なのか他の計画なのかどこかに、書き込んだ方がいいのではないかと総論的に思いました。</p> <p>その他、6-(1)の現状と課題では、避難のあり方や避難所の運営の見直しなど、次世代への防災教育や防災への女性参画が課題として分析されていますが、それが施策の方向に具体的な記載がないので、方向性だけでも記載したほうがよいと思いました。ご承知のように、避難のあり方については、今までの体育館への避難一辺倒、狭い体育館に密集状態になるようになるのではなく、コロナの件や災害関連死問題もあり、今は在宅避難、あるいは地区の公民館や親類のお宅に避難するといった多様な避難があります。今までは、避難所の運営も市や町の職員がかかりつ</p>

発言者	発言内容
	けになっていましたが、被災者の生活再建が逆に遅れてしまうという課題も指摘されているので、多様な非難の在り方について方向性だけでも表現できたらよいと思いました。
危機管理 監	<p>減災効果というお話は本当に重要だと思います。大きく南海トラフ地震の場合、掛川市では死者 800 人と推計しており、掛川市ではハード面として防潮堤を進めております。また、掛川市も家の耐震化や家具の固定など、細かな対策を行っておりますが、その対策がどれだけの効果になるかという減災の効果というものは公表をしておりますませんでした。非常に重要な部分ですので、今後検討させていただきます。</p> <p>それから、現状と課題に書かれている防災教育や防災への女性の参画などが、施策に反映されていないということではありますが、アクションプログラムや国土強靱化計画の中では、女性の防災への参加などを指標として行っておりますので、総合計画にも反映できるような形でもう一度検討したいと思います。</p>
委員	<p>6-(1)の現状と課題に、外国人の防災対策の推進について書かれています。外国人の方は、勤め先で罹災した場合は会社から避難の指示等があると思いますが、自宅に戻った時や地域で過ごしている時に災害にあった場合、地域との交流や地域の防災訓練に参加もしておらず、情報も全くない状態で孤立をしてしまうといった状況に陥ると思います。また、自助というところも理解できていないと思うので、地域の訓練などがあるときに、一緒に参加できるような取り組みがあるとありがたいと思います。</p>
会長	<p>地域のコミュニティとの連携というところがあると思いますが、そのあたりはいかがですか。</p>
危機管理 監	<p>外国人の防災について、実際に市として取り組んでいるのは、12 月に行う地域防災訓練です。その際、地区によって外国人の方が多い地区もありますので、そういった自治会には外国人の方に声をかけていただいて、訓練に参加できるよう周知していければと思います。過去には、南部の方にモデル地区を作り、外国人に訓練に参加していただいたこともあります。</p>
委員	<p>様々な宗教の方もいるので、ハラルの問題や避難した先での食事も配慮していただければありがたいと思います。</p>
会長	<p>大変多様化しておりますので、そのあたりの配慮も必要だということですね。</p>
委員	<p>6-(1)について、一般的に言われていますが、防災対策について、知らないものは認識しないですし、経験していないことは新しくその場でとっさに行動しにくいということはあると思います。これを危機管理課が施策や事業を進めているという記載がありますが、小学校での子どもへの教育においても GIGA スクールの端末も入りまし、デジタル接点も増えていく中で参画のチャンスも増えていると思います。情報発信の手段におきましても、ホームページやメールだけではなくて、様々なチャンネルが出てきています。こういったものの施策が浸透する、もしくは意識を高めるための活動というのは、危機管理課だけにとどまらず、関係する課の事業の中にもエッセンスとして組み込み、関係各課が横軸の連携を進めることにより、より効果的になっていくのではないかと思います。</p>
会長	<p>防災教育は、ほかの部局も横断的に取り組んでいく必要があると思いますので、危機管理課以外にも関連するところがあるのではないかとのご指摘ですが、そのあたりはいかがですか。</p>
教育長	<p>小中学生にタブレット端末を 1 人 1 台配備しましたので、今後は危機管理課と連携して、防災教育への活用も進めていきたいと考えております。</p>

発言者	発言内容
会長	今のご指摘のとおり、他の部局も横断的に取り組んでいただくよう、書き加えなどをしていただきたいと思います。
委員	情報共有という話題として、大阪府のスタートアップ企業が障害者手帳をデジタル化してサービスを行っています。今回自助とありますが、情報弱者など共助が必要な方についても情報入手の手段がデジタル化によって大きく変わっていく中では、通常障がいのある方向けのサービス提供をしながら、緊急時にはコミュニケーションツールにするなど、幅を広げて検討していただくと、1つの事業で2つの課題解決につながるということが生まれてくると思います。
委員	<p>環境問題、災害問題、福祉問題などについて、掛川市で計画つくって未来に向けて進んでいくには、子どもの教育が非常に重要だと思います。掛川市民である小学生から中学生に、市が未来に向かって行くことをきっちりと小中学校で教え込んでいただき、様々な問題に対して理解が進められる子どもたちをつくっていかなくてはならないと思います。</p> <p>今後、福祉の人材が非常に不足する時代を迎えますので、市民教育という抽象的なことではなく、学校教育の中にこういったことを盛り込み、地域の活動に参加する子どもたちを育成していただきたい、どこかでこのことをうたっていただければありがたいと感じました。</p>
会長	この件につきましても、全体を通してご検討いただければと思います。
委員	みなさんの意見をお聞きし、まちづくりにどう生かすかを考えて、どのように周りに伝え、自分自身がどう行動していくかを改めて考えました。
会長	<p>皆様ありがとうございました。</p> <p>本日は限られた時間となりましたので、皆様から他にもご意見・ご提案等ございましたら、ぜひ事務局へお知らせください。以上をもちまして、本日の議事は終了といたします。</p>
市長	<p>長時間にわたりまして貴重なご意見を賜りありがとうございました。</p> <p>1つの分野に閉じずに全体でもう少し意識するということが、例えば女性の視点や環境の視点、それから防災の視点といった分野で、担当の柱の分野だけでなく、他の分野、行政各部において、それを意識するようにというご指摘を多くいただきました。チャレンジとは、市民だけに求めるものではなく、市役所にも求められているものだともご指摘があり、そのとおりだと思いますので、ご意見を踏まえて今後しっかりと進めていきたいと思いました。</p> <p>本日は、貴重な意見をいただきありがとうございました。</p>